平成24年７月１日

校長会 みえ No.31

三重県小中学校長会　広報　第31号

●発行●三重県小中学校長会 津市桜橋 2-142　三重県教育文化会館内　TEL 059-227-7011
●編集●三重県小中学校長会　広報委員会　●印刷●光出版印刷株式会社 松阪市久保町 1885-1　TEL 0598-29-1234

私の学校づくり

私の学校づくりは、ある校長先生がお手本です

東員町立稲部小学校
校長　位田　あけみ

私の学校づくりのお手本は、教諭時代に出会った校長先生です。職員一人一人に温かい声かけ、忘れ物を届けに来た保護者と気さくに笑顔で立ち話、時には相談相手にも、「ちょっと近くまで来たので、校長さんの顔を見に来た」と来客多数の校長室、子どもたちの顔も教師もほこほこ顔になる頑張りを認めてくださる全校集会、地域の活性化にも一役かった特色ある学校づくりの推進、教育理念を持ち、先見性と気づき、方向性を示される姿勢等、すべてが今の私のお手本です。全員が一つの目標に向かって一生懸命だったということ、そして、何よりも楽しかったという思い出が今もよみがえってきます。

今、自分が同じ立場になり、その校長先生の姿を振り返ってみると、対話を軸にした風土づくりをされ、何気ない普段の会話の中で共通理解を図りながら、意思統一がされていたように思います。まさに、学校経営品質の四つの基本理念を率先垂範され、職員の手本として実践されていたのです。私も、対話を横軸に、学校目標に向けて目指す学校像、目指す教師像の達成を縦軸に経営しています。改革と銘打って六年目を迎えました。その間に「意図を明確に持とう」「まずは、やってみよう」「駄目だったらきっぱりやめよう」「決めたことは、みんなでやっていこう」「自分をゼロにして稲部小が積み上げてきたことを学ぼう」「弱みがわかったらすぐにてこ入れしよう」の共通言語ができました。この言語が改革の足跡すべてを物語っています。今年度は、「裾野は広がった。今年は、頂上を目指して精度を高めよう」を共通言語に新しく加えました。私もお手本の校長先生に少しでも近づけるよう学校づくりに邁進していきたいと思います。

会長挨拶

意志と意欲を持って

三重県小中学校長会
会長　鈴木就二

「させて頂きます」

ここ数年ある言葉が気になって仕方がありません。それは「～させて頂きます」という言葉です。国語が専門ではないので文法的な解釈はよく分かりませんが、私自身は「させて頂きます」という言葉を①相手の許諾を得て何かをする、②誰かに代わって何かをする、と解釈してます。ですから「させて頂く」を使ってしまうと、自分の意志が明確にならないと考えます。最近よく耳にするこの使い方は、単に丁寧語又は敬語として使われることが多いようです。

私には、「皆さんの許可・同意を得ていますのでよろしくお願いします」という風に聞こえ、【別に許可していないけど・・・】と心の中で言い返してしまいます。

会長になってから、様々な会議や総会などに出席する機会がありました。その中で、同席した大半の方の口から「○○をさせて頂いている某です」とあり、私もうっかり「会長をさせて頂いている」と言いそうになります。（多分言ってしまった時もあると思います。）確かに総会での承認直後は、文字通り出席者の賛成を得て「会長をさせて頂く」訳ですが、それ以降は、はっきりと私自身の心のスタンスとして「会長の」という言葉を使うべきだと感じています。

そう思って周りの発言を聞くと、「させて頂く」と同じような実にへりくだって丁寧な言い回しが増えていると感じました。

ある時若い職員が「お名前を頂いてもよろしいでしょうか」と言ってきました。私は反射的に「イヤって言ってもいいですか？」と冗談交じりに言ってみました。その人は困惑した顔でそれは困りますと応えました。「それなら、お名前を教えてください。と聞く方がいいですね」と伝えました。怪訝そうな「はあっ」という一言が返ってきました。

大会の開催に向けて

今校長会は、来年度に迫った「全国連合小学校長会研究協議会三重大会」と二十六年度の「東海北陸中学校長会研究協議会三重大会」の二つの大会の開催に向けて、実行委員会や準備委員会、そして各担当の皆さんが着々と作業を進めています。それぞれ夏の研究大会をプレ大会と位置づけたり、全国大会や東陸大会を視野に入れた具体的かつ詳細な準備を進めています。

大きな大会の開催には二つの意味があると考えます。一つはこれまで私たちが積み上げてきた教育実践を全国や東海北陸へ発信し、その評価を受けることです。評価の対象は単にその提案校だけでなく、その発表に至るまでに検討を重ね、実践をつくってきたその地域の学校であり、その郡市の校長会でもあります。もう一つは大会の開催を通じて、私たちの組織体制をより確かなものにすることです。大会運営には様々な役割があります。当日までの役割を直接担う方、当日の運営で力を発揮する方とそれぞれです。大会の成功には、準備で示す英知と当日に試される団結力、そして予期せぬ事への対応力が必要です。是非それぞれの立場から大会の成功に向けて積極的に力を発揮してください。なぜならこの二つの大会は、私たちが総力を挙げて「開催する」大会なのですから。

新学習指導要領については、中学校の全面実施をもって、小中ともに新しい学習指導要領を基盤に教育活動を展開することになりました。授業内容や時間数の増加、生きる力の育成と、その実現のために進める保護者、地域との連携協力、これらのことを踏まえながら各学校の実態、保護者の願い、そして私たちの願いを込めた教育課程の創造とその推進が求められています。

校長としての責務は、自校の教育課程を最終的に決定し、その実現に向かって職員集団を機能させることです。そのためには「校長をさせて頂く」ではなく「校長の」とはっきり言い切る意志と意欲を持つことが大切だと感じています。

県校長会は新しい体制の中、動き出しています。その原動力は会員一人ひとりの持つ、子どもたちへの熱い思いです。その熱い思いを教育改革、学校改善につなげていきます。本年度の活動や目前に迫った大きな大会を「させて頂く」のではなく、意志と意欲を持って、「します」と言える校長会を目指します。

平成二十四年度 三重県小中学校長会 役員及び監事・事務局

会長（兼中学校部会長）　鈴木就二・南が丘中
副会長（兼小学校部会長）　稲垣隆・芸濃小
副会長（兼小学校副部会長）　木戸豊志・斎宮小
副会長（兼小学校副部会長）　曽我隆清・西柘植小
副会長（兼中学校副部会長）　瀬古久美子・大江中
副会長（兼中学校副部会長）　関戸信・加茂中
幹事（兼小学校幹事）　前野哲裕・県小
幹事（兼小学校幹事）　﨑井清司・旭が丘小
幹事（兼小学校幹事）　奥井準次・南島東小
幹事（兼中学校幹事）　星野邦隆・陵成中
幹事（兼中学校幹事）　藤本幸生・名張中
幹事（兼中学校幹事）　川村宏也・荒坂中
監事　山田芳昭・益世小
監事　中西章・大紀中
事務局長　近田芳久
事務局次長　小椋猛
事務局次長　中川正生
事務局員　宮田典子

委員会報告

学校経営委員会

委員長　濱田博文

学校経営委員会　計画書

一、活動方針

学校経営委員会は、主として小中学校教育の充実発展に関する施策並びに予算要望活動を行います。

また昨年度の要望内容を踏まえた上で、子ども、保護者、地域、教職員からの具体的な声をあげていきます。

二、活動内容

各郡市校長会から予算要望等についてより切実なものを意見として出していただき、それに基づき要望書及び解説書を作成します。

それを学校経営委員会で議論をし、より説得力のある要望書及び解説書を作成していきます。県教委にその二つをセットで出すことで県教委・校長会とのずれが少ない懇談ができると考えています。

また各郡市校長会役員と共に、地元県議会議員への要望活動も行います。主なものは以下の通りです。

(1)教育の今日的課題に対応する施策について
(2)教育条件・教育環境の整備拡充について
(3)学校運営上必要な教職員の確保について
(4)国に対する要望について

三、課　題

(1)新学習指導要領実施に伴い、課題の出てきているものへの対応
(2)国の定数改善に加え、更なる教職員配置の充実
(3)特別支援教育の充実
(4)本県における学級編成基準・配当基準の改善及び運用の弾力化
(5)多様な教育活動に対応する人的配置と物的環境の整備・充実
(6)児童生徒の命を守る安全・安心な教育環境の整備
(7)義務教育国庫負担制度の堅持
(8)管理職選考の選考方法の改善

進路指導委員会

委員長　佐藤正倫

県立高等学校の入学者選抜制度が前期選抜・後期選抜に変更され五年が経過しました。昨年度は、県小中学校長会で求めてきた前期選抜の中学校長の推薦書がなくなりましたが、入学者選抜制度の抜本的な改善とはいえません。最近、各郡市では前期選抜の廃止に向けた話し合いが進んでいるように聞いています。そこで、本年度は前期選抜の廃止を含め、入試制度についての話し合いをさらに進めます。そして、その意見や要望を入学者選抜制度検証会・県教育委員会・県高等学校長協会との話し合いに反映させていきます。

進路指導を含めたキャリア教育では、学校現場での実践を研究することで、小中学校の発達段階に応じた体系的な指導のあり方を考えます。

一、活動方針

(1)児童生徒理解を深め、個性の伸長を図り、自己実現を目指す進路指導を推進する。
(2)県内各小・中学校長間の情報交換に努める。
(3)三重県教育委員会・三重県高等学校長協会・三重県私学協会・関係諸機関と協議し、入学者選抜制度や高校活性化問題等の改善に努める。
(4)キャリア教育についての研修に努める。

二、活動計画

(1)進路指導について、小・中校間や郡市の情報交換と連携に努

平成24年度　三重県小中学校長会・理事一覧

郡市名	小学校理事		中学校理事	
	名前	所属校	名前	所属校
桑名郡市	水谷　武司	七和小	中村　英二	多度中
いなべ市・員弁郡	近藤　啓司	東藤原小	三羽　隆男	大安中
四日市市	松原　慎二	羽津小	森田　茂生	塩浜中
三重郡	森井　景子	川越南小	今村　新次	菰野中
鈴鹿市	山田　博雄	石薬師小	渡邊　喜生	白鳥中
亀山市	櫻井　賢哉	昼生小	笠井　裕也	関中
津　市	杉本　一久	高野尾小	羽田　充宏	西橋内中
松阪市	鏡　仁治	中川小	東　博武	殿町中
多気郡	野口　和宏	大淀小	大西　学	協和中
伊勢市	宮城　弘明	城田小	藤原　厚	豊浜中
度会郡	大藪　茂喜	南島西小	北村　吉洋	度会中
鳥羽市	小竹　篤	鳥羽小	濱田　博文	鏡浦中
志摩市	山下　行重	神明小	山本　智博	文岡中
伊賀市	黒川　昌吉	柘植小	古城　正美	上野南中
名張市	佐藤　正治	薦原小	相樂　浩也	桔梗が丘中
尾鷲市	坂上香恵子	三木里小	野間　秀治	三船中
北牟婁郡	中井　克佳	三浦小		
熊野市	松田　健	有馬小	東　俊之	相野谷中
南牟婁郡	徳田　佳郎	神志山小		

平成24年度　研究大会

★第49回三重県小学校長教育研究大会

- 日　時　平成24年７月31日(火)　AM：全体会　PM：分科会
- 会　場　三重県総合文化センター　多目的ホール（全体会）
  三重県総合文化センター内　各会場（分科会）

全連小三重大会実行委員会報告

★第49回三重県中学校長研究大会

- 日　時　平成24年８月21日(火)　AM：全体会　PM：分科会
- 会　場　三重県総合文化センター　小ホール（全体会）
  三重県総合文化センター内　各会場（分科会）

記念講演　「ひとを育て、地域を育てる循環と連携
～海のまちのエコツーリズム～」
料理旅館「海月」女将「海島遊民くらぶ」代表　江崎　貴久　様

◎全連小奈良大会
・平成24年10月25日(木)・26日(金)　・奈良市

◎全日中大阪大会
・平成24年10月４日(木)・５日(金)　・大阪市

◎東陸連小愛知大会
・平成24年10月18日(木)・19日(金)　・名古屋市

◎東陸中愛知大会
・平成24年７月５日(木)・６日(金)　・名古屋市

☆全連小三重大会
・平成25年10月17日(木)・18日(金)　・県営サンアリーナ他

める。

(2)入学者選抜制度や高校活性化問題等について、三重県教育委員会、公・私立高等学校長協会と協議を続け、学校現場の声を反映させる。

(3)これらの活動を推進するため当委員会を年間六回開催する。

生徒指導委員会

委員長　野間秀治

昨年度、東陸大会の第五分科会「健やかな心身をはぐくむ教育の推進」に文書発表者として参加し、①校長のリーダー性の発揮。②組織の活用。③関係諸機関との連携。この三点が学校諸課題解決に当たっての共通のキーワードだと改めて認識させてもらいました。

昨年度の生徒指導委員会のまとめでは、①ネットモラルに関して、新知識、課題、安全対策、関係機関との連携の在り方等継続した取り組みの必要性②小中の実践、情報交流の意義と必要性③生徒指導、防災教育等における実践校の把握と発表依頼の必要性等が課題としてあげられています。第一回委員会でこのことを踏まえて検討し、「安全・安心な学校づくり」に資するため、以下の活動計画を立てました。

一、活動方針

(1)いじめ問題、ネットモラル等の生徒指導上の諸課題の早期解決にむけた支援の在り方を追求する。

(2)地域及び関係機関との連携を密にし、相互の交流を深めるとともに、安全・安心な学校づくりに努める。

(3)県内の各小中間の情報交換に努める。

二、活動計画

(1)八月七日　生徒指導研修会

(2)十月二十三日　実践交流会

＊「実践交流会」では、郡市各校長会に「実践校：二校」の依頼をお願いすることになります。ご協力よろしくお願いします。

広報委員会

委員長　松田健

先の東日本大震災の際、被災し社屋を流出させた地元新聞社の記者たちが、何と壁新聞によって任務を継続し、被災各地の情報を伝え続けたことが知られています。

六日目の新聞は「街に灯り広がる」の見出しで復旧の様子を紹介しています。これを読んだ市民がどれだけ励まされたことでしょう。

これほどの働きはできませんが、私たち広報委員会も、各郡市の校長会の努力の様子を皆様にお伝えすることを通して、校長会の絆づくりに少しでも貢献できればと願っています。

子どもや保護者の願いに寄り添いながら教育課題を解決し、着実に学校づくりを進めている事例を知ることは、お互いの励みになります。

各校長会が情報を提供し合って、県全体の学校づくり向上に資するべく、本年度の活動方針・活動計画を決定しました。

一、活動方針

(1)広報制作を通して、会員相互の連帯意識の向上を図る。

(2)会員の声を幅広く収集するとともに写真を充実し、読みやすい紙面づくりに努める。

(3)年三回の発行を着実に実行する。

二、活動計画

(1)七月、十二月、三月の三回、会報を発行する。

(2)編集内容は、①「私の学校づくり」②「今日的課題の克服に向けて」③「特別寄稿」④「新任校長の声」⑤「ちょっといい話」⑥「あの時、あの人」⑦「私の薦める一冊」⑧「随想」⑨「大会報告」⑩「地区校長会だより」⑪「本部役員だより」とする。

(3)紙面構成は、八面・カラー印刷。

(4)会員への執筆依頼は、当該地区理事を通じて行う。

特別委員会

委員長　山下行重

昨今のめまぐるしい社会状況の変化は、子ども達の社会性や規範意識の低下などに加え、家庭・地域の教育力の低下など様々な教育問題を生じさせています。また、学校教育を巡る課題もますます多様化し、複雑さを増してきています。

このような中、校長として保護者・地域と連携しながら、夢や希望の実現に向けて主体的に取り組む子どもが育つ学校づくりを推進していく必要性を痛感しています。

しかし一方で、職務の多忙性や学校への要求が増す中、校長自身の健康不安や処遇面での課題も大きくなってきています。

これまで本委員会は、校長に関わる今日的課題に着目し、情報提供や研究・提言していく取り組みを行ってきました。

そこで、本年度も五月十五日に、第一回委員会を開催し、校長に関わる課題から、本年度の活動方針と活動計画を決定しました。

一、活動方針

(1)校長として職責の重大さを再認識すると共に、多岐にわたる校長の勤務状況を把握し、多忙な勤務実態における健康不安の状況や「定年延長（再任用）」問題をはじめとする処遇面について、他府県の状況把握と今後の方向性について検討します。

二、活動計画

(1)校長の職務の状況と勤務実態等についての課題を整理するとともに、他府県の実態を把握するための方策について検討します。（六月）

(2)他府県の実態について分析を行い、学習会を実施します。（九月）

(3)県小中校長会としての今後の方向性について、一定の提示ができるよう議論を進めます。（十一月）

特別寄稿

三重県教育委員会
副教育長　小野芳孝

三重県小中学校長会の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より、小中学校教育の充実・発展のため、日々ご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

さて、新しい学習指導要領が、小学校では昨年度から、中学校では今年度から全面実施となりました。県教育委員会としましては、各学校において、新しい学習指導要領の趣旨等を踏まえた教育課程が円滑に実施されるよう引き続き支援していきます。

本県では、三重県教育ビジョンの理念を具体化するために、昨年度「三重県教育改革推進会議」において、「学力の向上」、「キャリア教育の充実」、「郷土教育の推進」、「地域と共に創る学校づくり」について審議いただきました。

また、昨年三月の東日本大震災の発生を受け、学校における防災対策・防災教育について根本的な見直しが迫られたことから、昨年十二月には、「三重県の学校における今後の防災対策・防災教育の在り方について〈指針〉」を策定したところです。

今後は、こうした審議結果等を踏まえ、より実効性のある取組を進めていきたいと考えています。

まず、一つ目は、学校における防災教育・防災対策の充実に向け、学校での平素からの防災教育の充実や、市町が実施する防災機器の整備等を支援していきます。

二つ目は、学力の向上に向け、全国学力・学習状況調査の実施・活用を促進し、調査結果の分析に基づく授業方法の工夫改善への支援を行うとともに、学校・家庭・地域などさまざまな主体との連携・協力のもと、学力向上に向けた県民運動を推進します。

三つ目は、学びを保障する基盤づくりとして、障がいのある子どもたち一人ひとりが能力や可能性を伸ばし、将来自立していけるよう、関係機関と連携し、早期からの一貫した支援体制の充実と学習環境の整備を進めていきます。

四つ目は、地域に開かれた学校づくりとして、コミュニティ・スクールや学校関係者評価等の導入を図り、保護者や住民等の学校運営への参画を促進する取組を支援していきます。

五つ目は、地域の企業や経済団体と連携し、小学校・中学校・高等学校の組織的・体系的なキャリア教育を推進していきます。

最後に、六つ目として、子どもたちの体力向上に向けて、地域のスポーツ人材を学校へ派遣し、体育の授業の工夫改善や運動部活動の充実を図っていきます。

県教育委員会としましても、市町等教育委員会との連携を一層深めるとともに、皆様方のご理解とご協力を得ながら、最大限努力していきたいと考えています。

最後になりましたが、本会のますますのご発展と皆様方の一層のご活躍を祈念いたします。

24年度 年間行事予定

月	日	内容
4	12	役員会・校種別役員会
	14	退職校長「感謝の集い」
	19	代表者会・校種別代表者会
	24	定期総会
	26	広報委員会
5	8	役員会・校種別役員会
	10	郡市会長会議
	10	進路指導委員会
	15	代表者会・各専門委員会
	17	(小)県大会実行委員会
	17	(中)拡大研究委員会
	23～24	全日中総会
	25	全連小総会
6	5	(小)県大会実行委員会
	7	進路指導委員会
	12	役員会・校種別役員会
	19	代表者会・各専門委員会
	21	(中)拡大研究委員会
	28	(小)研究大会打合せ会
7	3	進路指導委員会
	5～6	東陸中愛知大会
	10	役員会・校種別役員会
	12	学校経営委員会
	12	(小)県大会実行委員会
	31	三重県小学校長教育研究大会
	31	(小)県大会実行委員会
8	2	役員会・校種別役員会
	7	生徒指導研修会
	21	三重県中学校長研究大会
	24	臨時役員会・学校経営委員会
9	6	役員会・校種別役員会
	11	学校経営委員会
	13	代表者会・校種別代表者会
	13	広報・特別委員会
	20	進路指導委員会
10	2	役員会・校種別役員会
	4～5	全日中大阪大会
	11	(中)拡大研究委員会
	16	進路指導委員会・キャリア教育研修会
	18～19	東陸連小愛知大会
	23	生徒指導実践交流会
	25～26	全連小奈良大会
11	6	役員会・校種別役員会
	13	進路指導委員会
	20	代表者会・各専門委員会
	20	役員候補者推薦委員会
	22	(中)拡大研究委員会
12	4	役員会・校種別役員会
1	10	役員会・校種別役員会
	17	代表者会・校種別代表者会
	17	ブロック役員候補者推薦委員会
	31	広報委員会
2	5	役員会・校種別役員会
	12	郡市会長会議
	19	代表者会・校種別代表者会
	19	役員候補者推薦委員会
3	5	役員会・校種別役員会
	26	役員候補者推薦委員会
	26	臨時役員会・校種別役員会

全連小	実行委員会　5/21・8/10・11/8・2/12 事務局会　4/26・6/14・7/17・9/4 10/9・12/6・1/15・3/7 ４部会９委員会を随時開催
東陸中準備委員会事務局会　6/12/・7/10・11/6 ４部会を随時開催	

新任校長の声

「フレッシュ校長」として

川越町立川越北小学校
校長　中村純司

川越北小学校への転勤を契機として、自家用車通勤から電車通勤に替えました。

四月に入社したばかりのフレッシュマンやフレッシュウーマンなのでしょう。電車の中には、いかにも購入したばかりという感じのリクルートスーツを着て通勤している若者が多く、仕事や職場の話に花が咲いています。その話を聞いて、自分もそんな時代があったなあとなつかしく思っています。

かく言う私も、フレッシュマンならぬ「フレッシュ校長」として、この四月から川越北小学校でお世話になっています。

川越町への赴任は初めてのことで、戸惑うこともあります。しかし、小さな町ならではの良さも感じます。教育委員会事務局職員の方々は言うに及ばず、教育長さんや教育委員さんともお会いしたり、お話ししたりする機会も多くなっています。まさに、フェイス・トゥー・フェイスの関係です。また、それだけに学校への期待も強く、身の引き締まる思いです。

第一回目の職員会議で、校長としての思いを職員に三つの「つながる」というキーワードでお話しました。それは、「子どもとつながる」・「保護者や地域の方とつながる」・「職員同士がつながる」ということです。

子どもや保護者とつながることは言うまでもありません。これから、学校教育はますますむずかしくなっていくでしょう。そんな中で、職員が個別でがんばるだけでなく、学校組織の中に協働の風土を作るためにも、職員同士がつながることを大切にしたいと思っています。

「フレッシュ校長」が監督となり、微力ながら「チーム川越北小」をより強いチームにしたいと思う毎日です。

―ワイ・わい・Wahhi!の学校づくり―

津市立北立誠小学校
校長　伊東直人

前校長の取組を引き継ぎ、月二回、学校だよりを発行している。このタイトルを今年、新しくした。「ワイ・わい・Wahhi」である。「わいわいわい」と子どもも大人も、楽しく、熱心に話し合ったり、取り組んだり…。こういう姿があちこちにある。これが私の目指す理想の学校である。

また、これは「Y・Y・Y」。本校の教育目標「やる気いっぱい、やさしさいっぱい、夢いっぱい」の頭文字〔3Y〕である。

「やる気いっぱい」とは、様々なことに興味や関心を持ち、「考えてみよう」「やってみよう」と意欲を持って行動する子どもたちの姿。

「やさしさいっぱい」とは、自分を大切に思うとともに、友だちなど自分以外の人のことも大切に思い、行動する子どもたちの姿。

「夢いっぱい」とは、世の中のことに目を向け、夢や希望を持って自分や家族や社会のことを考え、行動する子どもたちの姿。

こんな子どもたちの姿を見つけるために、私は毎日、学校中をあちこち歩き回っている。

「事実は校長室で起きてるんじゃない。現場で起きてるんだ！」

校長室を飛び出して、現場に立って一生懸命に見る。事実を自分の目で見て学校運営を考える。子どもの姿を自分の目で見て教育の在り方を考える。校長室に戻って考えをまとめる。経験もない、実践的な知恵もない新任校長の私ができるのは行動のみである。

こんな姿を、保護者も地域の方々もあたたかく見守ってくださるようだ。「先生、体に気をつけて」「がんばってくださいね」ありがたい言葉をいただく。

これから、どんな学校になっていくのか楽しみだ。「わいわいわい」と職員と話し、「わいわいわい」と保護者や地域の方々と話す中で、誰もが大切に思える本校の姿が形作れたらと思う。そして、私自身も成長できるようがんばりたい。

みんなが「行きたい・行かせたい」と思えるような学校に

四日市市立羽津中学校
校長　淺川由子

本校はコンビナートと伊勢湾を臨む高台に位置しており、隣接する垂坂公園で平成十年から山のコンサートを実施しています。ここ数年は本校だけでなく、校区の幼稚園・保育園・小学校の子どもたちも参加しています。清々しい公園の空気の中で、幼児児童生徒が創り上げる歌声を聴きに、多くの地域の方が訪れます。

私は、みんなが「行きたい・行かせたい」と思えるような学校をめざしていきたいと考えています。まず、「生徒」が行きたいと思う学校にするためには、毎日の授業を工夫し、わかりやすい授業づくりをすることが基本です。そのためには、校内研修だけでなく、日頃

からＯＪＴを大切にし、自己相互研鑽による教師力向上をめざしています。特にミドルリーダーやベテラン教員との関わりは、若手教員の育成のために重要です。また、毎日の「学びの時間」の活用や家庭学習の見直しもしていきます。

「教職員」が行きたいと思う学校にするためには教職員集団の和を大切にして、帰属意識を高めるとともに、日常的に「報・連・相」を徹底して、組織としての学校づくりをすることが必要です。そのためには、分掌ごとに目標設定と管理をさせるなど、それぞれに責任を持たせます。一方、業務の効率化にも努めながら、気配りや声掛けもしていかなければなりません。

「保護者」が行かせたいと思う学校にするためには、山のコンサートや学校公開日、ＨＰによる公開だけでなく、生徒や教職員が積極的に地域に出かけるなどして、双方向での開かれた学校づくりが欠かせないと考えます。それ以上に、一人一人の生徒が毎日の学校生活を充実したものに感じられるような教育活動を行っていくことが信頼される学校への近道と考えます。

微力ではありますが、精一杯努力していくつもりです。

ちょっといい話

毎年、必ず、やって来る

伊勢市立中島小学校
校長　辻　宏

「トゥルルルル」
「トゥルルルル」

最近の電話と言えば、マンション経営の話だったり、インターネットの勧誘だったりで、本当に大切な電話はほとんどありません。でも、我が家の特別の日には必ず大切な電話がかかってきます。

今日は私の誕生日です。この年にもなると誕生日が特別の日という気もしないのですが、やはり電話はかかってきます。このことは、三十年以上前から続いていて、私にだけでなく、家族みんなの誕生日に鳴るのです。

それは、今から三十五年ほど前に養護学校の高等部で教えた子どもからです。教えたと言っても担任していたわけではありませんが、毎年、我が家の家族の誕生日には電話をしてくれます。その子は、何人かの恩師の家へバースデーコールをしているのです。ですから、いろいろなことをとてもよく知っていて、電話のたびに新しい情報を伝えてくれます。その子が在学していた当時の同僚と、たまに会って話をすると、私の近況などが伝わっていたりしてびっくりすることがあります。もちろん情報源はこの子です。

最近は、プライベートなことには立ち入らないのが当然で、隣近所のことでも知らないような時代ですが、このような繋がりには、心温まる思いがします。

もう一つ、私の心を和ませるのは、未だに年賀状をくれる教え子が何人かいることです。古くは三十年ほど前、小学校低学年の時に担任した子どもたちで、今ではみんな立派な社会人です。私自身は恩師に年賀状を出さなくなって久しいのですが、この子たちの律儀さには感心させられますし、毎年うれしい気持ちにさせてもらっています。

教師に対する世間の目は厳しく自分でも限界を感じたことは何度もあります。それでも精一杯頑張ってきた教師生活三十八年目の今、ほんの少しのこのような思い出が、先生をしてきて良かったのだという気持ちにしてくれます。

震災地を訪れて

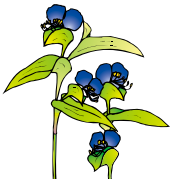
亀山市立中部中学校
校長　野呂幸生

亀山市は、五月二日を「家庭の時間づくりの日」とし、休日を連続させ、家庭のあり方を見つめ直そうと取り組んでいます。今年で三年目になります。

妻の故郷は岩手県奥州市です。なかなか義父母と会うことができないので会いたいという思いと、震災一年余りが経ち、震災地のようすを知りたいという二つのことから、「家庭の時間づくりの日」を利用して、五月二日～五日妻の実家に帰りました。そのうち三・四日の二日間妻と、被害のあった岩手県沿岸部山田町～大槌町～釜石市～大船渡市～陸前高田市～宮城県南三陸町を訪れました。一年余り経ちましたが、どこも傷跡が生々しく、復興には時間がかかるなと感じました。

三日は大船渡市越喜来（おきらい）にある民宿泊荘に宿泊しました。民宿の近くにある越喜来小学校は建物の外枠だけ残っている状況でした。当時の状況を民宿の方に聞きました。訪問した時、民宿をやっているので私は最初「震災を免れてよかったですね」と言いました。ところがそうではなかったのです。この民宿の一階天井まで津波が襲い、外にあった自動販売機も家の中に流されてきたこと、またおかみさんも屋根に逃げて一命をとりとめたことを聞きました。そんな状況で民宿をよく再開できたなと思いましたが、なんと震災二ヶ月後に再開したことを聞き再度驚きました。震災復興のため訪れる工事の人々や近くにある大学の学生を探す人々が泊めて欲しいという思いを受け止め再開したという。命からがら屋根に逃げたおかみさんが、民宿を再開し負けない姿を見て、とても元気をもらいました。「ちょっといい話」というテーマいただきましたが、おかみさんの元気が私にとっていい話です。

「がれき」の問題が出ています。今回いろんな所を見て、どこも「がれき」の処理が進まないと復興が進まないと感じました。全国で「がれき」の受け入れについて議論していますが、三重県でも「がれき」の受け入れを前向きに議論してもらいたいと思います。



地区校長会だより

鈴鹿市中学校長会

鈴鹿市は、本年度、市制七十周年を迎える約二十万人都市です。

市内の公立中学校の生徒数は約六千名で、中学校は平田野、白鳥、神戸、大木、千代崎、白子、天栄、鈴峰、鼓ケ浦、創徳の十校で構成されています。

昨年、鈴鹿市は今後十年を展望した「鈴鹿市教育振興基本計画」を策定し、基本目標「未来を拓く心豊かでたくましい子どもをはぐくむ鈴鹿の教育」を達成すべく取組を進めています。

特に重点施策として掲げられた「鈴鹿五策」

(1)家庭・学校・地域が主体的に協働する地域ぐるみの教育の推進

(2)一人一人を大切にし、学ぶ意欲とわかる喜びを高める少人数の推進

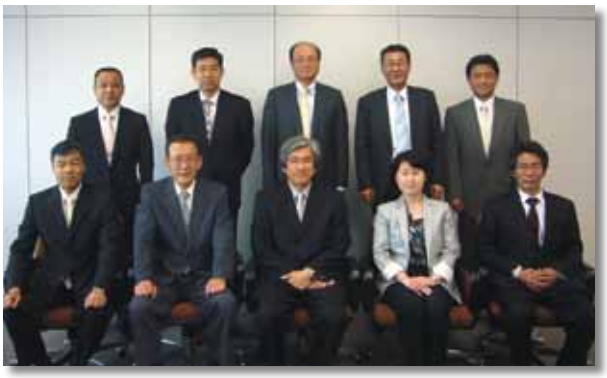
(3)多文化共生のまちづくりにつながる外国人児童生徒教育の推進

(4)ものづくりを基盤として、夢を育むキャリア教育の推進

(5)途切れのない支援をめざした特別支援教育の推進

を中心に据え、各校が地域や生徒の実態に応じた特色ある学校づくりに邁進しています。

定例の幼小中校園長会の他、年九回の自主中学校校長会をもち、中学校教育の課題等について意見交換・検討を行い、共通理解をもって学校運営にあたり、各校で①確かな学力を身に付けた子ども②人権尊重の精神に満ちた心豊かな子ども③生命をかけがえのないものとして喜び、尊重する子ども④社会の変化に対応できる子ども⑤郷土鈴鹿に誇りと愛情をもち、未来を拓くたくましい子どもの育成を目指しています。



度会郡小学校長会

授業力向上をめざして

大紀町・南伊勢町・度会町・玉城町の四つの町で構成された度会郡は、八百メートル近い山の麓の地域や熊野灘に面した地域、田畑が広がる地域等、山・海・田畑ありの豊かな自然に恵まれています。

しかし、度会郡の豊かな自然が生み出す地形が校長会の会議開催には厳しい条件となっていることは否めず、全会員が集合するのは、総会・前期研修会・後期研修会・人事対策総会の年間三～四回程度です。そこで町代表者会を年七回程開催し、郡校長会の事業検討や県校長会の報告等を行い、四町の校長会（月一回程度それぞれで開催）で伝達する仕組みになっています。

現在、度会郡校長会は二十二校（中七校・小十五校）で構成されており、ほとんどの活動は小中学校長が共に行っています。市町村合併及び学校統合により十五校まで減少した小学校は、今も南伊勢町の統合が進められており、平成二十六年度には十二校になる予定です。

学校数が減少の一途をたどる昨今ですが、先人たちが築き上げて下さった、授業を中心に据えた度会郡の教育活動を受け継ぎ、発展させていくという姿勢は私たち校長の使命であると捉えています。

三年前から度会郡内で実施している「小中学校授業交流」は、各校で行っている校内での授業研究を郡内に公開し、授業を通して教育力と実践力を高めていくことを目指しており、校長会が積極的に支援しています。また、本年度は十月から十二月にかけて四校の小学校で研究発表会を実施し授業実践を通して内外の方々からご指導をいただく予定です。

校長会としては、今後もより一層教職員の授業力向上に向けた取組を推し進めていきます。

編集後記

三重県小中学校長会広報「みえ」の第31号を発行する運びとなりました。新年度を迎え大変お忙しい中、原稿執筆依頼を快く引き受けていただいた方々には心より感謝申しあげます。

さて、広報委員会では、今年度も年三回の広報を発行し、情報提供に努めることを決定いたしました。会員相互の連帯意識のさらなる向上、そして日々校務に追われる中で、少しでも癒しや元気を与えられるような内容づくりに努めていきたいと思います。

昨今、学校を取り巻く社会的・経済的環境の変容が激しく、専門職たる教員の役割が改めて問われ、法令改正や教育政策・改革が次々と打ち出されています。こうした時に当たり、時宜を得た実践事例等を情報提供し、各校の教育活動の充実に役立つ広報誌となることをめざしていきます。

今年は、天体ショーの当たり年です。金環日食、金星日面通過、金星食、願わくはオリンピックの金メダルが日本に癒しと元気を与えてくれることを願っています。今後ともご支援ご協力よろしくお願いいたします。

●原稿募集

会員の皆様の投稿をお待ちしています。なお、内容・字数等につきましては事務局へお問い合わせ下さい。

●「校長会みえ」について、御意見・御要望があればお聞かせ下さい。

三重県小中学校長会
広報委員会